

健康診断受診項目

身体計測

| | |
|---------------|--|
| BMI (体格指数) | 身長と体重の割合で、BMI=体重(kg)÷身長(m) ² の式であらわされます。BMI=22の時の体重が標準体重とされ、最も生活習慣病になりにくいといわれています。 |
| 体脂肪率 | 身体に占める脂肪の割合で、皮下脂肪と内臓脂肪を合わせたものです。年齢により、若干誤差がありますが、男性21~24%、女性34~36%(年齢によって基準値が変わります)を超えると、体脂肪率が高いと判断されます。 |
| 腹囲 | へその高さで水平に測ったお腹周りで、男性85cm以上、女性90cm以上は内臓脂肪型肥満(メタボリックシンドローム)が疑われます。 |

眼科検査

| | |
|----|---|
| 視力 | 5m視力測定により、近視の度合いを調べます。 |
| 眼圧 | 眼球の内圧を調べる検査です。高値の場合は緑内障が疑われます。 |
| 眼底 | 眼の写真を撮り、直接血管の状態をみる検査です。眼の病気のほかに動脈硬化・高血圧性変化・糖尿病性変化の有無などを確認しています。 |

聴力検査

| | |
|----|---|
| 聴力 | オーディオメータで、低音(1000Hz)・高音(4000Hz)が聞こえるかを調べます。 |
|----|---|

血液一般検査

| | |
|---------------------------|--|
| 赤血球数 ヘモグロビン ヘマトクリット | 血液成分の大部分を赤血球が占めます。赤血球の中にヘモグロビンという色素が含まれます。ヘマトクリットは一定量の血液の中にどのくらいの割合で赤血球が含まれるかを調べます。いずれも低値の時は貧血の疑いがあり、高値の時は多血症が疑われます。 |
| 白血球数 | 体内に侵入した細菌や異物を取り込む細胞で、高値の時は炎症や白血病が疑われます。 |
| 血清鉄 | 血清中に含まれる鉄分を測定します。低値の時は鉄欠乏性貧血が疑われます。 |
| 血小板 | 出血時に血を止める働きをしています。その数を調べます。低値の時は血が止まりにくくなります。 |
| MCV MCH MCHC | 赤血球数、ヘモグロビン量、ヘマトクリット値を組み合わせて一定の数式で算出したもので、貧血の原因や貧血の種類・性質などを区別する上で有効な検査の一つです。赤血球の平均容積・平均色素量・平均色素濃度を示します。 |
| 白血球分画 | 白血球を詳しく調べると、好酸球・好塩基球・リンパ球・単球・好中球(桿状核球・分葉核球)に分けられます(分画)。分画ごとの増減数を調べ、病気診断の手がかりとする検査です。 |

脂質代謝検査

| | |
|----------------|--|
| 総コレステロール | 総コレステロールはすべてのコレステロールの総称です。細胞膜の構成や胆汁、ホルモンの原料となる重要な物質ですが、量が多すぎると動脈硬化の原因となります。 |
| HDLコレステロール | 血管壁に付着する余分なコレステロールを肝臓へ返します。低値の時は動脈硬化の原因となります。 |
| LDLコレステロール | 肝臓から全身の細胞へコレステロールを運びます。高値の時は動脈硬化の原因となります。 |
| non-HDLコレステロール | HDLコレステロール以外のコレステロールの値で、(総コレステロール-HDLコレステロール)の計算式にて算出される値です。高値の時は動脈硬化の原因となります。 |
| 中性脂肪 | 食事によって摂取される脂肪がほとんどを占めます。高値の時は、動脈硬化や膵炎の原因となります。 |
| β -リポ蛋白 | コレステロールや中性脂肪のまわりを包んで血液に混ざりやすくしている蛋白です。高値の時はコレステロールや中性脂肪が多いことがわかります。 |

肝機能検査

| | |
|------------------------------|---|
| AST (GOT) | 肝臓や心筋・骨格筋等に多く含まれる酵素です。高値の時は、肝障害・心筋梗塞・筋疾患などが疑われます。 |
| ALT (GPT) | 肝臓や腎臓に多く含まれる酵素です。高値の時は、肝炎・脂肪肝などが疑われます。 |
| γ -GTP | 肝臓や腎臓・膵臓にも含まれる酵素です。アルコールの摂り過ぎや、さまざまな肝臓の病気で高い値を示します。 |
| ALP | ほとんどの臓器に含まれる酵素です。主に肝臓・骨から出ています。高値の時は肝臓・胆道系・骨や腸などに異常があることが疑われます。 |
| LAP | 胆汁中に多く含まれる酵素です。高値の時は肝臓・胆道系などの病気が疑われます。 |
| 総ビリルビン 直接ビリルビン 間接ビリルビン | 古くなった赤血球が分解される時にできる物質で、胆汁色素の主成分です。直接ビリルビンと間接ビリルビンを合わせたものが総ビリルビンです。直接ビリルビンが高値の時は、肝障害・閉塞性黄疸などが疑われます。間接ビリルビンが高値の時は、溶血性貧血・甲状腺機能低下症などが疑われます。 |
| 総蛋白 アルブミン A/G比 | 総蛋白は血清中に含まれる100種類以上ある蛋白の総称です。アルブミンは血清蛋白の大半を占めている蛋白です。A/G比は血清中のアルブミン(A)とグロブリン(G)の割合です。栄養障害や肝機能障害で異常値を示しますが、更に詳しい検査が必要となります。 |
| LDH | 糖がエネルギーに変わる時に働く酵素で、全身の細胞に含まれています。臓器の障害などで高値になります。 |
| コリンエステラーゼ | 肝臓で作られる酵素で、高値の時は脂肪肝・脂質異常症、ネフローゼ症候群が疑われます。低値の時は、肝障害・栄養障害などが疑われます。 |

糖代謝検査

| | |
|-------|---|
| 血糖 | 血液中に存在する糖質で、高値の時は糖尿病が疑われます。食事を摂った時間により変動します。 |
| HbA1c | 通常の血糖値や尿糖のように食事の影響を受けず、過去1~2ヶ月の平均的な血糖値の状態がわかります。高値の時は糖尿病が疑われます。 |

腎機能検査

| | |
|--------|---|
| 尿素窒素 | 体内でエネルギーとして使われた蛋白質の老廃物です。高値の時は腎臓障害が疑われます。水分不足でも値が上昇することがあります。 |
| クレアチニン | 体内でエネルギーとして使われた蛋白質の老廃物です。高値の時は腎臓障害が疑われます。 |
| eGFR | クレアチニン・性別・年齢から算出され、糸球体ろ過能力を正確に診断することができます。低値は腎機能低下が疑われます。 |

膵機能検査

| | |
|-------|---|
| アミラーゼ | 主に膵臓や唾液腺から分泌される消化酵素です。高値・低値ともに膵炎などが疑われます。 |
|-------|---|

尿酸代謝検査

| | |
|----|--|
| 尿酸 | 核酸の代謝によって生じた老廃物です。高値の時は痛風や尿路結石を起こす原因となります。 |
|----|--|

尿検査

| | |
|----------|---|
| 尿蛋白 | 腎臓や尿管などに何らかの異常が起こっている場合や、疲労が蓄積している時にあらわれます。 |
| 尿糖 | 糖尿病のスクリーニング検査を主な目的として、尿中のブドウ糖の有無を調べます。 |
| 尿潜血 | 尿中に血液成分が含まれているかを検査します。尿路に結石・腫瘍がある場合にあらわれ、健康な人でも激しい運動後に陽性になることもあります。生理中は判定に影響が出ます。 |
| ウロビリノーゲン | 古くなった赤血球中のヘモグロビンがビリルビンに変化し、腸内で分解されて尿中に出てきたものです。陽性の時は、肝臓病や溶血性貧血が疑われます。 |
| 尿沈渣 | 尿の沈殿物の種類や数、形態的变化を顕微鏡で検査し、腎臓・尿管・膀胱・尿道などの病気の有無を調べます。 |

便検査

| | |
|-----|--|
| 便潜血 | 便を採取して、血液が混じているかを検査します。消化管に出血がある時に便に血が混じります。特に大腸がんのスクリーニング検査として用いられます。 |
|-----|--|

呼吸器系検査

| | |
|-------|---|
| 胸部X線 | 肺及び縦隔(左右の肺の間)・胸膜・心臓の異常を調べます。 |
| 喀痰細胞診 | 痰を採取して、顕微鏡で病的な成分が含まれていないかどうかを観察します。(+)以上の判定の場合は、精密検査が必要です。 |
| 肺機能 | 空気を吐く速さや量を測定して、空気を肺内に出し入れする時の換気機能を調べます。肺気腫・気管支喘息など肺の病気の有無を調べます。 |

循環器検査

| | |
|-----|---|
| 心電図 | 心臓が発する微弱な電気信号をとらえて波形として記録し、心臓の機能を調べます。狭心症・心筋梗塞などの心筋の異常や不整脈の有無を調べます。 |
|-----|---|

血圧測定

心臓が収縮して血液を動脈に送り出している時(最高血圧)と、心臓が拡張して血液を内部に満たしている時(最低血圧)に血管にかかる圧力を調べます。どちらが高くても高血圧となります。

消化器系検査

| | |
|-------------------------|---|
| 上部消化管造影検査 (胃部X線検査) | 食道・胃・十二指腸までの消化管をバリウムで造影し、臓器の形の変化や異常を調べます。 |
| 上部消化管内視鏡検査 (胃部内視鏡検査) | 胃カメラを口もしくは鼻から直接十二指腸まで挿入し、画像で胃や食道・十二指腸の状態を調べます。 |
| 腹部超音波 | 腹部に超音波を発信し、臓器の画像を映し出し、臓器の形や構造の変化を調べます。肝臓・腎臓・膵臓・胆のう・脾臓を見えています。 |

胃がんリスク検査

| | |
|--------|---|
| ペプシノゲン | 胃の粘膜の萎縮の状態を調べます。萎縮粘膜から胃がんや胃炎が発生しやすいといわれています。胃がんのできやすい状態になっているかを検査します。 |
| ピロリ菌抗体 | 血液中のピロリ菌抗体量を調べます。高値の時は胃のピロリ菌感染が疑われます。 |

骨密度検査

手のX線撮影をし、骨の密度を測定します。骨粗しょう症などの病気の有無を調べます。

婦人科検査

| | |
|----------|---|
| 子宮頸がん細胞診 | 子宮頸部の粘膜や細胞を採取して、顕微鏡で観察し、子宮頸部の細胞の変化の程度を調べます。判定はベセスダシステムで表記します。 |
|----------|---|

乳房検査

| | |
|---------|-------------------------------------|
| 乳房触診 | 乳房を触って、しこりや分泌物の有無を調べます。 |
| 乳房超音波 | 超音波の画像により、しこりなどの形状や周辺の状態を調べます。 |
| マンモグラフィ | 乳房をX線で撮影し、しこりの形状や石灰化像などの病変の有無を調べます。 |

炎症反応検査

| | |
|-----|---|
| CRP | 体内に急性の炎症や感染、組織の損傷がある時に、血液中に増える蛋白の一種です。 |
| CPK | 骨格筋や心筋などの筋肉細胞のエネルギー代謝に重要な役割を果たす酵素です。また脳にも含まれ、筋肉や脳などの組織細胞に障害があるかどうかを判定する上で役立ちます。 |
| 血沈 | 赤血球が沈む速度を測定します。様々な病気で異常値を示すので、スクリーニング検査として利用しています。 |

肝炎ウイルス検査

| | |
|----------|--|
| HBs抗原・抗体 | B型肝炎ウイルス(HBV)に感染しているかを調べます。HBVは慢性肝炎から肝硬変・肝臓がんへと進行する可能性があります。 |
| HCV抗体 | C型肝炎ウイルス(HCV)に感染しているかを調べます。HCVは慢性肝炎から肝硬変・肝臓がんへと進行する可能性があります。 |

その他の免疫血清学検査

| | |
|----|---|
| RF | 関節リウマチ(RA)の診断基準の一つとして用いられます。高値になると、関節リウマチや膠原病が疑われます。 |
| 梅毒 | 代表的な性感染症のひとつです。(+)は感染していることを示します。膠原病や妊娠中でも陽性と出ることがあります。 |

腫瘍マーカー

| | |
|--------|--|
| PSA | 男性の前立腺がんが高値を示します。前立腺肥大症、前立腺炎などでも高値を示すことがあります。前立腺の腫瘍マーカーの中でも特に有用とされています。 |
| CA125 | 主に卵巣がんが高値を示します。卵巣嚢腫、子宮内膜症でも高値を示すことがあります。 |
| CEA | 主に消化器系(大腸・胃・膵臓・胆道など)のがん、肺がん、甲状腺がん、乳がん、卵巣がんが高値を示します。加齢や喫煙でも軽度上昇することがあります。 |
| AFP | 主に肝臓がんや肝炎、肝硬変などで高値を示します。肝臓病の早期発見などに役立ちます。 |
| CA19-9 | 主に膵臓・胆道がんが高値を示します。膵炎、胆のう炎、胆道系疾患、大腸がんなどで高値を示すこともあります。 |
| シフラ | 主に肺がんが高値を示します。気管支拡張症、肺疾患、腎機能障害などでも高値を示すことがあります。 |
| p53抗体 | 主に食道がん、大腸がん、乳がんが高値を示します。 |
| SCC | 主に肺がん、子宮頸がんが高値を示します。 |

◎腫瘍マーカーには、早期がんでは反応の弱いものや、がん以外の病気でも高値を示すものがあります。

甲状腺ホルモン検査

甲状腺の病気は、症状が軽微で本人が気付かないことが多く、また健康診断の項目にも入っていないので見逃されることがあります。
血液検査で甲状腺刺激ホルモン(TSH)、甲状腺ホルモン(FT4、FT3)を調べ、必要に応じて抗体検査や画像検査(エコー検査等)で診断されます。

| | |
|-----|--|
| TSH | 脳で作られるホルモンで甲状腺ホルモンの分泌を促します。甲状腺機能低下症などで増加し、甲状腺機能亢進症等で減少します。 |
| FT4 | 血液中の甲状腺ホルモンで、甲状腺機能亢進症等で増加し低下症では減少します。 |
| FT3 | 血液中の甲状腺ホルモンで、甲状腺機能亢進症等で増加し低下症では減少します。 |

◎甲状腺ホルモン検査で所見があった場合は、甲状腺機能亢進症(バセドウ病)、甲状腺機能低下症(橋本病、粘液水腫等)、甲状腺炎等のこともあります。主治医または甲状腺専門医等にご相談ください。